

SimC News Letter

Sendai International Music Competition

2025年12月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第9回仙台国際音楽コンクール最高位受賞者ムン・ボハ出演

「SMBC presents “新しい風”スペシャル・コンサート～チャリティーコンサート～」演奏評

柴田 克彦（音楽評論家）



©TERASHI Masahiko

新日本フィルハーモニー交響楽団

「SMBC presents “新しい風”スペシャル・コンサート～チャリティーコンサート～」

日時：2025年11月16日（日）14:00 開演

会場：すみだトリフォニーホール 大ホール

指揮：ダレル・アン

ヴァイオリン：ムン・ボハ

ピアノ：鈴木 愛美

曲目：

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲二長調 op.35

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 op.37

2025年11月16日（日）東京のすみだトリフォニーホール大ホールにて、「新日本フィルハーモニー交響楽団 SMBC presents “新しい風”スペシャル・コンサート～チャリティーコンサート～」が行われ、2025年5～6月に開催された第9回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で最高位（1位なしの2位）を獲得した韓国出身のムン・ボハが出演した。コンサートの前半を受け持つ彼女の演目はチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲、共演はダレル・アン指揮／新日本フィルハーモニー交響楽団である。

本公演には二人の俊才＝“新しい風”が出演したのだが、もう一人は第12回浜松国際ピアノコンクールで日本人初優勝を果たした鈴木愛美（彼女はベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番を弾いた）。この点に、仙台、浜松両国際コンクールのレベルの高さを重んじる斯界の評価が表れている。

ムン・ボハは、仙台国際音楽コンクールのファイナルでモーツアルトのK207（協奏曲第1番）とブルックの「スコットランド幻想曲」、セミファイナルでドヴォルザークの協奏曲を選んでおり、そこでチャイコフスキーの協奏曲を弾いてはいない。ヴァイオリニストなら誰もがレパートリーに入れる超名曲とはいえ、こうした別都市の重要公演においてコンクールで弾くために仕上げきった曲とは異なる作品を披露する姿勢が、音楽家として重要なあくなき意欲を示している。

第1楽章。彼女はオーケストラの序奏に続く最初のソロを艶やかな音でごく自然に聴かせ、以後も丁寧な運びでじっくりと曲を奏でていく。テクニックは極上で、フレージングは常にナチュラル。音の通りも良いので、ソロがオーケストラの強音に消されることもない。しかも相次ぐ場面変化が的確になされ、無伴奏の見せ場もその演奏は正確極まりない。こうしたオーケストラと一体化しながら運ばれる音楽は実にスムーズで、長大なこの楽章が弛緩することなく表現された。

第2楽章も同様だ。ムン・ボハは緩徐楽章の特質に沿ってじっくり、たっぷりと曲を紡ぐ。ここは楽曲の魅力であるしっとりとした情感が見事に醸造された。



SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION

■お問い合わせ／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel:022-727-1872 Fax:022-727-1873 Email:info@simc.jp URL:https://simc.jp

2025年12月号

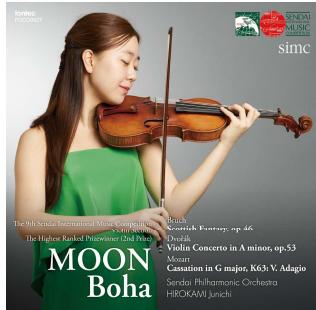
第3楽章は豊潤で力強い演奏。彼女は度重なる難儀でテクニカルな動きを正確に、しかも颯爽と表現し、鮮やかに曲を締めくくった。そしてトータルでみると、曲全体の構成バランスの良さも光っていた。

おもに若手が弾くチャイコフスキーの協奏曲は、濃厚さを強調した大仰な（「わざとらしい」ともいえる）表現で圧倒するケースも少なくないが、ムン・ボハはあくまでナチュラルかつストレートに曲を表現した。全ての音符をもれなく再現した上で、濃厚なティストや民族性等は楽曲自体に語らせるという方向性は実に貴重で好感が持てる。まずはアメリカ（カーティス音楽院）で学んだ確かな技術で曲を正確に構築し、派手に体を動かすゼスチャー（=オーバーアクション）で音楽を補うことなど絶対にない。こうした「力み」や「あざとさ」のない行き方は、艶と芯のある温かく美しい音色、曖昧さ皆無の堅牢なテクニックと相まって、今後の大きな伸びしろを感じさせた。

アンコールはJ.S.バッハの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番より第3楽章アンダンテ。ヴァイオリン協奏曲後のソロ・アンコールでしばしば耳にする1曲だが、ままあるかすれ気味のアバウトな演奏ではなく、やはり全ての音が正しく表出され、潤いをも湛えた表情豊かな音楽が肃々と展開される。これは同曲の演奏としては意外に稀少で、そこに技術力の高さがまざまざと示されていた。

今回のパフォーマンスを聴いて、仙台国際音楽コンクール最高位受賞者のハイレベルの手腕を心底実感するとともに、今後様々な経験を積んでいくに連れて音楽表現の幅を増すであろう彼女の成長ぶりが大いに楽しみになった。ムン・ボハは今後もぜひ追いかけていきたいヴァイオリニストだ。

第9回仙台国際音楽コンクール公式ライヴCD販売中!



ムン・ボハ ヴァイオリン部門最高位

FOCD9927

[収録曲] ブルレッフ:スコットランド幻想曲 op.46

ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.53

モーツアルト:カッサシオント長調 K63からV.アダージョ

[指揮] 広上 淳一

[管弦楽] 仙台フィルハーモニー管弦楽団



エリザヴェータ・ウクラインスカヤ ピアノ部門優勝

FOCD9928

[収録曲] モーツアルト:ピアノ協奏曲 ハ長調 K467

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23

[指揮] 高関 健

[管弦楽] 仙台フィルハーモニー管弦楽団

定価:2,640円(税込) (2025年12月3日発売)

販売元:株式会社ファンテック

取り扱い:全国のCDショップほか

制作:公益財団法人仙台市市民文化事業団